

第5回 静岡市市民活動促進協議会（第10期） 会議録

1. 開催日時 令和8年9月2日（水） 9時30分から11時30分まで
2. 開催場所 静岡市葵消防署 7階 講堂
3. 出席者 （1）出席委員 山岡会長、木村副会長、大村委員、川村 栄司委員、
河村委員、川村 美智委員、小久江委員、佐々木委員、
柴田委員、西委員
（2）事務局 石川市民自治推進課長、渡井係長、柏原主査、
今西主任主事

4. 傍聴者 0人

5. 内 容

（1）会議の成立及び公開

委員12名中、10名の出席があるため、条例第14条第2項の規定により会議が成立していることを確認した。また、会議の傍聴及び会議録は公開するものとし、非公開とすべき事項が生じた場合に、その都度、その旨の決定することを確認した。

（2）議 事

（山岡会長）

それでは、さっそくですが、議事に入ります。

次第に沿いまして、議事を進めてまいります。

「第4回協議会振り返りについて」と「柱1、2の中間見直しについて」の説明を事務局からお願いします。

（事務局説明）

- ・第4回協議会振り返りについて
- ・柱1、2の中間見直しについて

（山岡会長）

ありがとうございます。

ただいま事務局から、前回の振り返り、それから柱1・2の数字も出たということで、説明がありました。

前回同様、グループで15分ぐらい時間を取りますので、今の報告と、前回の議論を思い出して、話し合いをしていただきたいと思います。

柱1・2ということなので、最初に柱1について話をさせていただいて、その後、途中でお声がけをするので、柱2の話し合いをしていくという形で、最後にどんな話を

グループの中でされたかということ、共有いただいた上で、全体で意見交換を進めたいと思います。

グループで別れて話をする前に確認をしておきたいということがあれば、おっしゃっていただければと思います。いいかがでしょうか。

よろしいですかね。自由にお話してください。今、柱 1 と 2 を順番にと申し上げましたけれども、重なるところもありますから、一緒に話していただいてもいいですし、やりやすいやり方でやっていただければと思います。

(グループ内で意見交換)

(山岡会長)

ありがとうございます。それでは、グループごとにどんな話が出たかということ、結論とかそういう話じゃなくて、こんな意見が出ましたっていうそういうレベルで構いませんので、報告をしていただいて、その上で、全体で意見交換したいと思います。よろしいですか。

(河村委員)

市民委員の河村です。こちらのグループでは、まずこちらの資料にある、事例としてある、シチズンカレッジとか、まちづくりスクール、これが市民自治推進課さんの活動ではなくて、他の課の活動の紹介というのが、非常に面白いなというところで。

確かに市民自治推進課さんだけで、全部を担えるほど簡単な事業ではないと思いますので、いろんな課と、会長から庁内協働っていうようなお話もあったんですけども、他の課の取り組みだったりとか、場合によっては、河村委員からは県もこういう活動、そういうのあるよねっていうことで。

静岡県だったりとか、他の市町だったりとかの取り組みも一緒に取りまとめて、市民自治推進課さんがなんかこう発信していくような形が取れたら、すごくもっと活性化するんじゃないかというような意見がありました。

施策の柱 1 の数値なんですけれども、こちらは目標が達成に近づいているということなんですが、こちらは量の指標のところでございまして、これから例えば、その発信する情報の質だったりとか、そういったことも高めていけるような、何か施策があればというようなお話を私の方からさせていただきました。会長からは情報の質が高めて、受け取る側がどういう触れ方をするかということも重要ではないかというような話もいただきました。

次に施策の柱 2 の数値目標なんですけれども、数値に関してはあくまでも、参考的にというか、参考として扱うっていうようなお話が前回までであったかと思うんです

が、この施策の柱 2 の数値目標の市民活動に参加したことのあるという、市民活動ってというのが何を指していくのかというのが、ちょっと一言ではかなり多岐にわたって、分からない方もいらっしゃるし、実際私も具体的に、じゃあ何が該当するかっていうのが分からないので、この指標、数値を発信する時は市民活動とは何を定義しているのかというものを合わせて発信をすると、分かりやすくなるし、例えばその市民活動として定義しているものが広すぎるのか、それとももっとこういうところも付け加えられるのかとか、そういった新たな議論にもつながるのではないかとということで、セットで発信したらどうかというような話がありました。

最後にですね、いろんな数値目標、数値があるんですけども、この市民活動っていう中には静岡市の職員さんも市民として、入っているはずですので、結構人数がたくさんいるので、例えば、こういったアンケートを取って、その数値を載せるっていうのと並行してですね、自分たち職場の同僚、仲間、上司、後輩が、今市民活動に対してどういう意識を持っているのか、参加したことがあるのかと、そういうアンケートだったり、そういったことがあっても面白いのかなと、そのアンケートがあることによって、気づきがある職員の方もいらっしゃると思いますし、自分たちも市民活動に参加したことがあれば、自分たちが仕掛ける、そういった活動にも質だったりとか、やり方だったりとか、プラスの影響が出ると思うので、もしかしたらそういう静岡市職員さんも、今どうかという、現状を把握するようなアンケートだったりとか、ヒアリングだったりとかっていうのがあってもいいのかもしれないというお話をさせていただきました。以上です。

こちらの4人のグループです。よろしくお願いします。

面白かったものは、社内でもそういった、こう市民活動じゃないんですけど、この情報見てくださいねっていうのを送っても、やっぱり8割は見るんですけど、2割ぐ

らいは見てくれないっていう現状が意外とあって。それに近い数値で、なかなかこう、どんなに工夫しても、その2割って、見てくれないこともあるというか、そういうこともあったりもするので、そんなに深追いしなくても、このままこうだんだんと詰めていけばいいんじゃないかっていうなお話だったりですか。

この想定される事業というスライドのところにありますけど、こうした名前は私自身もすごくよく聞くとこでするので、なんか発信するのに力を入れていただいているので、市民に届いてるんじゃないかなってというような感じの話し合いがありました。

一方で、やらされ感とかが上がってしまったたりだとかいうところもあるので、楽しかった人が増えるといいよねっていう話にもなってって、次も参加したいとか、来年も参加したいとか、そういうふうになるとか、市民活動に触れた次のステップってどうしたらいいのかなってというようなお話を、施策の柱2のところ繋がってくるので、その次の議論に繋がっていった感じでした。

(西委員)

柱2に関しては、毎回同じような意見が出ていたり、答申案の資料にも、やっぱり市民活動というものの定義が、ちょっとどうしてもハードルの高いものに思えてしまって、本当は活動しているのに、活動したことないって答えてる方が結構いるんじゃないかということもやっぱりあり、市民側が市民活動というものの解像度がもっと深まれば、この目標数値を達成できそうな感じを受けますよねという話しました。

どちらかという、柱1として、いろいろ取り組みをして、皆さんに情報に触れてもらったり、ワークショップに参加してもらったりした方が、その後新しい活動を生み出すとか、今までやってなかった活動に参加するみたいな、そっちの動きがどれぐらい増えたかっていうふうなのが測れた方が、政策の効果があったかどうかっていうか、見えやすい、分かりやすいなと思うので、それが測れればいいよねという話もありました。

あとですね、やっぱりさっきも楽しむ、楽しんでもらうっていうのが大事だよなって話もあったんですけど、いろんな、市民活動の中にはどんどん高齢化して、団体ごとなくなっちゃったりとか、メンバー同士とか、協力者とうまく連携が取れなくて、活動が衰退してしまったりみたいなこともよくある話だと思うんですけど、市民活動をやる側、主催したりとか、コーディネートする側の力量みたいなところもやっぱり大事で、自分と年齢のギャップとか、いろんなギャップがある現場とも、うまくやれる力とか、参加者がちゃんと楽しんで、参加し続けてくれるような、企画とかコーディネートができるような力をつけていくっていうことが、結果的に市民活動がどんどん発展していくっていうことに繋がるんだろうなという議論にもなりました。

ちょっと話が戻ってしまうんですけど、情報に触れたり、きっかけとなるものに参加した市民が、その後はいろんな活動にどう繋がっていくかということなんですよ

ど、今ここにとか、まちづくりスクールとか開催されている中で、現状は参加者の皆さんにどういうふうなフォローの体制があるのかとか、どんな情報の展開をしているのかっていうのも知りたいというのもありました。以上です。

（川村 美智委員）

3人のグループです。いつも私が雑談提供してしまっただけで、まとまっていないですけど、数値目標については特に変えずに置いておくとして、やる気がないわけじゃないけども、ずっとその活動に関わっていなきゃいけない束縛感が嫌だっていうような雰囲気があると話しました。

私たち自治会も祭りやイベントの時に、その時だったら手伝える、隙間時間だったらやるという感じで参加する人が増えています。PTAとか子供会も。そういう人をどうキャッチするか、何か仕組みとしてあると面白いですね。

それから、自治会とか地域の活動のリーダーになる時に、やっぱりファシリテーションやコーディネートの力が求められます。新しく役員になった人などを対象に、実際にどうやったらファシリテーションできるのか学べる機会を、市の方で提供してくれたら、もう少しいろんな団体の運営がスムーズに行くのではないかという話になりました。

言ってくれたらやるのにと、このときだったらやるというタイプの人に、今までのやり方じゃなくて、どういうやり方でつなげたらいいのか。この施策の中にはなかなか入れきれないですけども、そんな単発型みたいなのが、市民活動であってもいいのかなという気がしました。ありがとうございました。

（木村副会長）

やっぱり市民活動っていうのは先ほどのお話にもあったように、やはりハードルが高いものだっていうので、ちょっとした手伝いだって、あるいはこういった講座に参加した、ここにとかで参加した人たちだって、地域貢献とか社会のためにではなくて、本当に参加したこと自体もやっぱり市民活動じゃないかな。

あるいは、趣味の活動だってそうじゃないか、自治会もそうだ、静岡市の市民活動はこんなに広いんだよっていうような、そういった静岡市ならではの市民活動の捉え方っていうのを打ち出していいのかなというような話もありました。

あと、情報というところでは、番町とかがそうですかね、オープンチャットみたいなのか、安東の地区もそうですけども、SNSを利用して、随時いろんな情報が流れるというか、送りつけるっていうような、双方向ではなくても、いろんな地域の、自分の地域の情報が、どんどん流れてくるっていうような仕組みもあると、情報も繋がりがやすいんじゃないかっていうような、そんないろんな多岐にわたることが出てきたところです。以上です。

(山岡会長)

ありがとうございます。

皆さん、結構共通するところを見ているなと感じました。ここまでずっとこの協議会の中で議論してきた、実態に即してとか、連動ということが、随所に出てきていたと思いました。

例えば、まちづくりスクールに参加した人に対してどうフォローしているのかという話もありましたけど、これも連動ですよ。触れる・楽しむから動き出すことにつながっていくのか、触れた人が活動に、こちらのグループでも出ましたけど、活動したかどうかをフォローしてきたとか。

あと、動き出すのところで、市民活動をする側の力量を高めない、動き出せないでしょうという話があって、それって多分、施策の柱3につながってくるんですよ。そこの支援をちゃんとやらないと、2だけ見えても追えないよね、そういう話もあります。

後は、先ほどの隙間時間に言ってくればやるよみたいなのも面白いですね。でも、言ってくればやるよも、実は誰に言われるかが結構重要で、役所の人に言われてもやろうとは思わないかもしれないけど、でも、いつも一緒に元気にやってるあの人に言われたらやるみたいなこともあるんじゃないでしょうか。それはこっちでも出ていて、情報は足りてるわけですよ。情報がないから参加できないという人は2割しかないわけで、情報あるわけですよ。

だからあとはその情報がどう届くか。それは、誰から届くとか、どういう時に届くとか、そういうことが結構大事で、情報があるかないかという話ではなくね。先ほどの隙間時間ならやるよとか言う人に誰がその情報を届けるか、そんなことも考えていかなきゃいけない。それも情報をどう届けるかということですから、共通することです。そんなことを思いました。

あと、私どものグループで出たことですけど、やっぱり、市民自治推進課だけでなく、他の課ともっていうのは、やっぱりこれは、前回の、協働につながる部分でもあるので、この触れる楽しむとか動き出すの部分でもやっぱり協働っていうのは重要ですね。

先ほど報告のあった災害のネットワークも、動き出すのところに紹介されてますけれども、これってつながるの話でもありますよね。あとは、他の地域、千葉や熊本などの被災地の支援に静岡の市民活動の人たちも関わっているということも、繋がるということの一つです。この柱ごとに切り分けて、見ていたり、評価をしていたりすることが、そもそも相応しくないのかもしれないということを皆さんとの意見交換の中で、改めて感じました。

皆さんの方でも何かお気づきのことだとか、他のチームの意見にかぶせてとか、感

想でも、何でもお話しいただければと思います。いかがでしょうか。

先ほど、うちのグループで出た市役所の職員の方に対するアンケートというのは何か取っているんですか。。

（事務局）

令和5年度にですね、協働事業に関する意識調査っていう形で全庁的にアンケート取った、そういう事例があります。

ちょっと今データがないんで、覚えてる限りなんですけれども、どちらかというところの3番目とか4番目とかにかかるとかなような部分で、市民活動団体との協働を、あなたの仕事の中でやったことがありますかとか、そういう事業を検討したことはありますか、検討して形にならなかったもの場合は、どういう理由で、それがうまくいかなかったのかとか。実際やった人に関しては、やってみて苦労があった点はあるかみたいな、いろんなものをちょっと1回取ってます。

で、その中ではやっぱりこう、1/4ぐらいの職員が実際に市民活動団体と協働して、何か事業をやったっていうことがあるんですけど、3/4はやってないということ。どうしても職員全体になると、例えば区役所の窓口で従事してる職員もいるものですから、どうしてもやりやすい、協働しやすいところとしやすくない部局があるっていうのはあるんですけれども。

それにしても、もう少し増えてもいいかなっていうような部分があったので、そこで出てきてる、市民活動団体とつながる場がないとか、そういったところが、結局事業に繋がってないよっていうようなアンケートも出たもんですから。うちで持っている中でいうと、協働パイロット事業をちゃんとやっていかなきゃならないねだったり、あるいは職員向けの研修をきちんと入れていかなきゃならないよねということで、eラーニングの研修をちょっとやってみたりとかっていうことで、ちょっといかしてやってます。

定期的にはちょっと取っていないんですが、ツールとしては、取れるツールはあるので、そういったところは、必要に応じてやることは可能かなと思ってます。

（山岡会長）

ありがとうございます。今のは、業務としての活動の関わりだと思うんですけど、我々が話していたのは一市民として、市役所の職員が一市民として、市民活動に関わっておられるかということです。そういうようなことが、もしあればいいという話です。もっと踏み込むと、そういうことを後押しできるような仕組みがあるといいですね、という話になります。ありがとうございます。

(川村 栄司委員)

会長の方からも少し触れられましたし、ここのグループでも出ましたが、施策の柱1に対して、情報をいかに発信するかという問題意識があると思います。情報が溢れていて、会長が言われたように、どうやって情報に触れるのかというところが結構大事だなという点と、当初の計画の中で想定される事業の冒頭に、市民活動支援システム「ここからネット」があって、これをやめるという報告をしているんですけど、今若い人はどういうルートで情報に触れているのかなって聞いたんですが、やはりインスタとか、SMSですよ、そういうところだと。

じゃあそれをうまく活用すればいいのかということにもなるし、それぞれで検討の余地はあると思いますが、溢れている情報の中で、生きてくる情報というのは、アナログな方法が逆に注目されるんじゃないかというのが、会長がおっしゃっていたことです。

例えば、想定される事業が、当初計画の中で学校における出前講座の実施などありますが、こういうことを地道にやっていくことで、それを聞いた人の胸に落ちていくという効果があるんじゃないかという議論はちょっとありましたので、ご紹介しておきます。

(山岡会長)

情報が溢れているということですよ。うまくいっているっていう見方もできるけど、情報が溢れているから、情報が足りないことが課題ではなくて、別の課題がある可能性があるのではないかという見方をした方がいいってことです。

ひとまず、指標の数値に関してどうこうっていう意見はないということでもいいですよ。

これらの数値が適切であるとか、それを見て順調に行っているとか、そういうことではなくて。これは前回の柱3・4の見直しでもあったんですけど、分析をする際の指標として見るということで、この指標に関しては、今見直すとか、別の指標を立てようっていう意見がここではないという理解でいいですね。ひとまずは、中間見直しです。

ただ、その見方だとか、働きかけに対してはたくさん意見があって、先ほど川村委員からお話があった、ただ発信して届いているからそれでいいじゃなくて、それをどう届けていくとか、どう触れるのかとか。あとは先ほどからも出ている連動ですね。触れた後どうなっているのかとか。あるいは、動き出すために市民活動団体に対してどういうサポートをしていくとか、そういうことは意識しながらやっていかないといけないんじゃないかっていう意見です。

今私の頭の中で覚えているものだけを出したので、もっとほかにもいろんな意見があったはずなので、そこは拾い上げてきていただきたいです。そういう部分は少し留

意をしながら施策を進めていかなきゃいけないといけない。

そういうことでよろしいですか、ひとまず。また、この後、答申案の説明があると思うんですけど、柱１・２の議論は今日したわけですから、それが今回提示いただいている資料には反映されておりませんので、それも反映した上で、答申案を修正していただくということで、そこでまた確認していければと思います。

最後ですね。「答申案について」ということで、今回案を提示いただいておりますので、こちらの説明を事務局からお願いします。

（事務局）

答申案について

（山岡会長）

ありがとうございます。これは結構ボリュームがあるので、全部丁寧に読んで、一つ一つ確認する時間は、ちょっとここでは取れないですし、私もですけど、まだそこまできちんと丁寧に読み込めていない。ただ、読めばいろいろ気づくこともあると思います。

最終的には、今日の議論も含めて案を作っていただいて、答申を出すのが１０月で、その前までにもう協議会がないんです。今日が最後なので、全体の場では、今日もしお気づきのことがあれば、ここで今のご説明に対して、ご意見をいただきたいということです。

ただ、この場限りではなくて、もう協議会はないですから、後日、改めてしっかり読んで意見を出していただくということもできますので、それも踏まえてですけど、今ここで何かお気づきのことがあれば、ご発言いただければと思います。いかがでしょうか。

（川村 栄司委員）

この答申案の中に市民活動センターに関する記述が出てくるんですけど、この協議会の前期でこれからの市民活動センターに求められる役割について、昨年３月に答申を出しています。せっかくそこで２年間議論した経緯がありますので、その答申も参照しながらとかということを、この市民活動センターに関わる記述の中に入れていただいたらどうかと思います。

それがあんまり今の市政にとって気に入らないよっていうことであれば、それはまた別の話ですけど、ちょっとそんなふうに思いました。

（山岡会長）

はい。気に入らなくても、協議会で入れることになれば、これは協議会で出す答申ですから、入れます。大事なところですよ。私も同じように思います。今回、市民活動センターのことが施策の柱 4 の中に記載されていますけど、市民活動センターは施策全体に関わると思います。だから、この 4 の中に入れ込むのは、市民活動センターの役割を少し狭くとらえ過ぎてると思いますので、全体のところで切り出すか、それぞれのところに入れていただくということが必要だと考えます。あと、やっぱり前期の答申は、大事にしてもらいたいと思います。

どうでしょうか。ざっと読んで、今の説明も聞いて、こんな話もしたな、あの話もしたなということを思い出しながら、うまく入れていただけてるなと思います。

ただ、川村 栄司委員がおっしゃったような、構成だとか、重複があったりとか、この説明はこれで本当に良いんだろうとか、ちょっとそういうところで、私は気になるところがいくつかはあるので。もう 1 回確認をしなければいけないなとは思っています。

例えば、市民活動への支援は実態に即した効果的なものになっているかというところで、入口のところを強調して書いてありますけど、別に入り口のことだけでなく、柱 3 だとか 4 のところも当てはまる場所なので、それを視野に入れた説明をする必要があるだろうなと思いますし。センターの役割が柱 4 に閉じ込められているのも気になるし、とかですね。いくつかあります。

何かあれば。協議会としてこの答申を出しますので、皆さんのお名前も入って、答申を出しますので、うまく作ってくれたんでこれでっていうことではなく、皆さんお一人お一人がお考えになっていることがあると思います。協議会としての意見ですから。これがすごく大事だから、漏れないように記載してほしいとか、この説明に関してはこういうこともちゃんと追記してほしいとか、ご意見をいただきたいとは思っています。

（佐々木委員）

ちょっと気になったというところでは、2 ページのはじめにのところで、市民活動の定義を示していただいているんですけども、これまでの議論の中では、市民活動というのはボランティアとか地域活動だけでなく、いろんな面の活動を市民活動として捉えていきたいなという意見もあったので。

そうなってくると、ちょっと公益的になってという言葉がちょっと気になってしまってます。必ずしも公益でなかったとしても、市民活動は広くていいのかなっていうのもあったので、自由意志はもちろんそうだし、最終的には地域活動とか、地域課題とか社会課題の解決につながっていくのはもちろんそうなんですけど、公益的っていう言葉

で、なんか縛られてしまわないかなというのが。

初めにあると、どうしても気になってしまって、別の表現にしていだけるといいかなというふうに思います。

（柴田委員）

修正とかじゃなくて、今の公益的って言ってたところ、ちょっと繋がるんですけど、すごくよかったというか、これって載ってくるんだって思ったのが、柱の2のところに、活躍とかチャレンジとかよく言われると思うんですけど、そういうのだけではなくて、それも重要なんですけど、活躍しなくても良いとか、自分を大事にするようなこと、自分らしく暮らしたいっていったことも大事ですよっていうことを強調してくれてるのは、すごいいいなと思ったんですよね。

自分の団体をそういったことに近いですし、それが結果的に地域の環境とかをよくする可能性もどこかに秘めてるってところでは、すごいよかったなと思うので、その公益的っていったところも、確かに最初に来ると、ああ、やっぱりこんな感じかって思ってしまう人もいるかもしれないので、少し見直していただいてもいいかなっていったところと、あと、会長もおっしゃっていただいたように、市民活動センターはすごく重要だと思いますので、ここのところが狭く捉えすぎてないかなっていうところは賛成で、広く捉えられるような書き方にしてもらえるとありがたいかなというふうに私も思っております。ありがとうございます。

（山岡会長）

ぜひ、表現とか説明なんかも過不足あれば、ご指摘いただければと思います。どうでしょうか。

（河村委員）

内容としては、全体的には賛成なんですけども、2番の計画についてというところで、5次総からのワード、バックキャスティング、共働・共創、ここの説明がないと、なんか突然感がすごくあって。もちろん、知ってる人は5次総があって、この市民活動のものだっという考え方だと思うんですけども。

多分これ単体で見ると人にもいると思うので、ワードの説明を※とかでしてくれると、より理解が深まるのかなというところと、あと、同じ視点で、これだけを見る方もいらっしゃるっていうことを考えると、政策の柱1・2・3・4をもう少し説明するような、段・章があってもいいのかな。基本計画の進行管理のところ、突然現れてる感がすごくするので、別出しで、これを柱1・2・3・4として定義して、そこをメインにみたい。そこをちょっと出した章があると、全体を通して分かりやすい答申になるのかな。これだけ見た人も分かりやすくなるのかなというふうに思いまし

た。

（山岡会長）

ありがとうございます。それは私も同じで、基本計画を参照しながら、少し説明がないってことです。また、連動についても、この基本計画を作るときに意識して作っていますので、やっぱりその前提がある中で、今回見直しの中でしっかり確認しないといけないよねという話なんです。なので、そこは何らかの参照が必要かなというふうに思います。

（小久江委員）

ちょっと表現に気になるところがあって、3ページと12ページ目のところで、先ほど、協議がありましたけど、やっぱり定義をするっていう、どういうものなのかっていうことを表現するのが一番重要だなと思っていて。

「市民活動は福祉や地域づくりに限られるものではなく」っていう表現と、12ページのところだと、「市民活動は福祉や地域づくりにとどまらず」っていう言い方をしていて、「とどまらず」っていう言い方の方がいいかな。「限られるものではなく」っていうと、なんかもうそういうものがあつたのかって、固定的な意味合いもあるなと思うので、表現の仕方だと思うんですけども、「とどまらず」っていうような、こう広がるような、そういった表現の方がいいなっていうところで、ちょっと細かいところではあるんですけど。

（山岡会長）

ありがとうございます。細かくないです。大事なところだと思います。他にいかがでしょうか。

（佐々木委員）

佐々木です。そもそも論にまた戻って申し訳ないんですけど、市民活動って、やっぱり、自分が今何か関わっていることが市民活動なのかどうかわかってない。でも、周りから見ると、市民活動だよなみたいに実は見られてたっていうのがあるっていうのが、前からちょっと意見も出ているし、こういった資料にも出てきているので、この市民活動っていう定義というか、そこをもう少し、こういったことも、先ほど出た、市民活動イコール自治会につながることであったり、趣味のことであったり、地域防災のことだったり、すごく本当に幅広いので、今自然災害とかいろいろあるんで、災用寄りなのか、町内・自治会寄りなのかだけじゃないよっていうところ、誰かと繋がってること、勤めているとか、お仕事してる以外で、何か関わっていれば、それはもう市民活動だよっていうのを、大げさかもしれないですけど、そういったよう

なことだよみたいなのが、もう少し分かりやすい形で、ここの中に入ったらいいんじゃないかなと感じました。

（山岡会長）

ありがとうございます。市民活動が何かというのは、条例で定義があるんですよね。だから、その条例の定義は条例の定義だと思うんですよ。だけど、この協議会の中では、そこに留めていないんだという、そういう説明になると思います。それは、この協議会としてはそういうふうに理解しているし、現実もそうだし、やっぱり世の中が変わってくる中で、市民活動の範囲そのものが広がってきている、多様な活動が生まれるようになってきているという理解だと、そこをきちんと説明する必要があると思います。

（佐々木委員）

多分この市民活動という言葉がすごく狭めてしまう可能性があって、すごく広いのに、その市民活動というこの4文字にギュッと。自分は地域に役に立ってるのか、つながりたいと思うことも、その4文字ですごく狭めるように、捉えがちになっちゃってるんじゃないかなって思って。

（山岡会長）

おっしゃる通りです。だから、前回の市民活動センターの時にも議論に出たんですけど、そもそも市民活動センターって名前がよくないんじゃないかとか、狭い捉え方になっているという話があって。ただ名称を変えるということは難しいので、愛称をつけたらどうかとか、そんな意見も出たんですよ。だからもしかすると、これから議論していく中で、そもそもこういう活動、市民活動を中心とするこういう活動の何か、別の捉え方ができるような言葉や名称を提案することも必要かもしれない。

ただ、それはかなり大きな話なので、ひとまずは、条例で定義されているものだけを市民活動として捉えてるわけではないということの説明は必要だと思いますね。

（大村委員）

答申案については、計画の柱立てや構成が非常に分かりやすく整理されており、高く評価しています。そのうえで、企業経営の視点から申し上げますと、10年後、20年後の地域社会のあるべき姿を明確に描き、その実現に向けて今何を行うべきかという「バックキャスティング」の考え方が重要だと感じています。将来像が明確になることで、市民や団体が具体的に何に取り組むべきかがより分かりやすくなるのではないのでしょうか。また、今後は人口減少が進む中で、市民活動団体の育成、人材確保、リーダーの養成、世代間交流の促進、行政や企業との連携強化など、多くの課題に取り

組む必要があります。しかし、そうした活動の担い手は最終的には一人ひとりの市民です。その意味で、計画の推進には人材育成が最も重要な基盤になると考えます。地域の未来をより良くしていくのは市民一人ひとりであるというシチズンシップ意識を育み、次世代へと活動を継承していく視点が欠かせません。答申の最後で触れられている「次世代への継承」の考え方は、まさに重要なポイントであると感じました。

（山岡会長）

ありがとうございます。前提のところで、そのことを入れられるところがあれば、個々の施策の話ではなくて。

（西委員）

西です。私が気になったのは8ページです。柱の1で、下から2行目のところです。「これまで地域との設定が少なかった市民」として挙げているのが、「若年層や現役世代、転入者など」と記載されてるんですけど、外国人の方だったりとか、障がい者の方みたいなのところも載せていただいて、皆さんに心を伝えたいと思います。

（川村 美智委員）

静岡市内で、県内在住の外国人を対象にした健康相談や検診会が年1回、30年近く続いています。市民団体と静岡済生会総合病院、県立大や常葉大が協力し、学生さんたちや市民がボランティアで参加し、外国人で保険証を持ってない方とか、健康相談の機会がないような方をサポートするものです。つい最近、そのためのチャリティーコンサーが静岡英和女学院の礼拝堂で開かれ聴いてきました。英和の中高生のハンドベルの演奏のほか県立大のアカペラグループ、静岡大学の吹奏楽部の演奏がありました。

若い人も含めて幅広い年齢層と複数の組織のいい連携がそこにあり、静岡でこういう活動が長く続けられていることの素晴らしさをあらためて感じました。

それからもう一つ。私は、安東三丁目自治会に属していますが、安東地区には23の単位自治会があって、地区として時代に合わせて防災組織を見直そうという課題が出ています。そんな中、静岡市女性会館主催の防災をテーマにした女性カレッジを受講したことをきっかけに、同じ地区の大岩二丁目と北安東一丁目、安東三丁目のメンバーが集まって、昨年「Go 近所防災@あんどろ」というグループを作りました。

メンバーには市民活動という意識はそれほどないけれども、新しい情報を持ち寄って近隣でまとまろうという意欲があり、話し合う雰囲気が出てくると、どんどん活動が進んでいく実感があります。

現在、城北高校を指定避難所とする複数の単位自治会が協働して、体育館をどのように使うか学校や市も加わって協議会を開くまでになりました。そんなふうにして、

小さい活動から少しずつ広がっていくケースとか、先ほどの外国人対象の健康相談や検診会のように長い歴史があるものとか、そういう活動の価値を再認識することもスタートになると思います。

答申として入れるとしたら、息長く続けることの大切さとか、自分たちの自治会だけでは解決できないけど近隣の自治会でつながって改善するとか、そういうところに、市も関わってくるといいなと思います。

（山岡会長）

数字だけじゃ見えないものがあるってことです。その事例をダイレクトには入れられないですけども、想いみたいなものは落とし込んでいければと思います。

本日の議事は以上で終わりにしたいと思います。

答申に関して、事務局から今後のスケジュールについて説明がありますので、事務局にお返しします。

（事務局）

活発なご協議ありがとうございました。

- ・今後のスケジュール
- ・連絡事項